高校神奈川

発行人　馬鳥　敦
編集人　岩崎　長久
横浜市西区藤棚町2の197
高校教育会館内
TEL　045(231)2479
FAX　045(231)2536
http://www.fujidana.com

本年もよろしくお願いいたします

執行部 新年のご挨拶

生徒・若者が未来に希望をもてる社会をめざして

執行委員長　馬鳥　敦

新年おめでとうございます。

神高教も、新たな一年を迎えます。神奈川の高校現場では、毎年300人超の教職員が定年退職を迎え、300人超の若い教職員が採用されています。年齢構成の6割を占める50歳代の教職員は、この10年で退職し、現在進行形で採用されている若手教職員と交代する「激動期」が到来しています。

格差社会の進行の下、教育の機会均等が急速に失われつつあります。高等教育機関に進学する若者の多くは数100万円に上る負債（教育ローン）を抱え、社会生活をスタートします。その3人に1人は、年間所得が極端に低い非正規労働者という実態があります。労働者派遣法の改悪はこのような状況をさらに深刻にすることが予測されます。

また、年末の解散・総選挙の結果、安倍首相が国民の審判を仰いだと公言する集団的自衛権の行使によって、日本の若者が戦場で血を流すことにつながっていくことが懸念されます。

神高教は、5000人の組合員が結集する日本で最大規模の高校組織です。全国の組織ともつながっています。一人ひとりの組合員が日々の教育実践にとりくみつつ、十分な職場討議を前提に団結力を強化していくことによって、若い教職員の皆さんが誇りをもって仕事を続けられる神奈川の高校現場を創りあげることができると確信しています。

神高教は、引き続き「教職員の経済的、社会的、政治的地位の向上」（神高教綱領）を求めます。本当にきびしい環境ですが、全世代の組合員が英知を結集し、生徒・若者が未来に希望をもてる社会を実現するため、楽しく運動をすすめていきましょう！

初春の楕円の球を追いかけて

執行副委員長　成田　恭子

大学ラグビー選手権決勝、帝京大学対筑波大学戦、長らく怪我のため休んでいた権裕人（コンユイン）選手が元気な姿を見せてくれました。彼は大阪朝鮮学校出身で、ドキュメンタリー映画「60万回のトライ」の主要な登場人物の一人です。

昨年、「60万回のトライ」の自主上映運動に携わりましたが、監督の朴思柔（パクサユ）さんの言葉が印象に残りました。「日本の皆さん、今悪い状況になったとしても決してあきらめないでください。何度も何度もトライしてください。60万回トライすれば、きっと状況は変わります。」

今年は、労働法制改悪に対して、戦争法案に対して、平和・人権を守る戦いのまさに正念場です。あきらめず、何度もトライしていきたいと思います。

やっぱりLove&Peace

書記長　畠山　幸子

この暮れから正月にかけての話題は、もっぱら「ピースとハイライト（平和と極右?）だった。時の権力の無知と幼児性をちょっとかばらかってみたといった風情だが、単に「希望の種を植えていこうよ　地上に愛を育てようよ」と唄うよりもずっとインパクトがあって心に残るで、お定まりの炎上！唄った桑田氏を「反日的だ」とか、湘南地域にまでバッシングが広がったとか。ヘイトスピーチを知った時は驚愕だった。心の中に溜めこんだ不幸や不満を、「お前の母ちゃんでべそ（なんとノスタルジー溢れるフレーズ！でも通じてしまうところが怖い）的な、何の根拠も理論もない、単なる悪意の表出として、特定の民族名の中に押し込める。こんな理屈、誰も受け入れるわけないと思ったが、庇護してる人たちがいたのだな。でもあのバッシングは、「裸の王様」が誰かって、誰もが知っていたということだ。今年は正念場になるのだと思う。やっぱりLove&Peaceがいいと、誰もが思い出さなきゃいけない時だ。

「希望のない時代となりましたが・・・」

書記次長　小山　晴美

敗戦から70年、憲法改正を党の綱領とする自民党結成60年、憲法改正の決起を叫んで自決した「三島事件」から45年。そして安倍政権。

いよいよ「最終局面」か？しかし、いかに絶望的な時代でも自由・人権・平和を唱え続けた人たちがいたことを忘れてはいけません。2015年は、1989年公開の『バックトゥーザフューチャーPart2』で描かれた近未来の年だそうです。当時、小学校6年生だった私には、捨てられた「ごみ」を燃料とする空飛ぶ車が魅力的に映りました。あれから26年。空は飛びませんが、生ごみを燃料としたバイオメタンで走る車は開発されているそうです。日本は原発事故というあまりに大きな代償を払い、それでも再稼働という容認できない問題はあれど、限りある資源エネルギーからバイオマスや太陽光などの再生可能エネルギーへの開発がいま進みつつあると思います。

そして今年、戦争のない日本が70年を迎えました。26年後の未来が、持続可能な社会に転換し、戦争のない日本であるためにとりくむ1年としたいです。

後退することなく、ゆっくりでも一歩ずつ前進を！

執行委員　峰尾　正一

昨年は、政治が教育に不当介入した感を払しょくできません。学校現場を混乱させた就学支援金制度の事務手続き、教育委員会制度の改悪、達成度テストや教科「道徳」の導入など、課題が山積しています。

また、総選挙の結果、集団的自衛権の行使容認を閣議決定した安倍政権が存続したことで、これ以上日本が妙な方向へと突き進まぬよう、ますます今後の政治運営を注視しなければなりません。

私たちは「教え子を再び戦場に送らない」ために、常に「抵抗」していかねばなりません。労働者・市民に何ができるか。実に深刻な年明けとなりました。

戦争がない、持続可能な社会をめざして

執行委員　加藤　はる香

去年、高校神奈川新年号に「日本を1930年代のドイツにしてはならない」という文を書きました。去年12月の総選挙での自公大勝で、向こう4年間がヒドイ4年間になるのは必至。「戦争のできる国」と憲法改正が目前となりました。

代

第二次世界大戦が終結して70年が経過しようとしています。初任校以来、「何故あの戦争を止められなかったのか」ということについて生徒たちと考える授業を続けてきました。今年は、本部役員の立場で、改めてこの問いに向き合わなければ

決

昨年は生涯で一番国会周辺に足を運び、声を上げてきました。残念ながら、私たちが求めている社会とは、違う方向にむかっています。

年末の選挙においても、与党（自民党、公明党）で2/3の議席をとっており、大企業優先、原発再稼働、軍備拡張、辺野古基地建設、消費税増税などがすすめられていきそうです。

しかし、自民党への投票は国民の25%にとどまっています。白紙委任したわけではありません。個々の課題について声を上げていく必要があります。

今年も平和・環境・人権

生きやすい社会にするために

執行委員　秋山　英好

わたしが卒業した大学の同窓生たちは、それぞれの業界・職場では見事なまでに少数派である。仕事など

悲観も楽観もせず

書記次長　岩崎　長久

お正月の朝、子どもの私は小さなバケツを、父は大きなバケツを二つ持って、

肝に銘じます。

重たくなってしまいましたが、悲観も楽観もせず、歩んでいきたいと思っています。

「あたりまえ」のこと

日教組派遣執行委員
（平和フォーラム事務局長）　藤本　泰成

雪道を歩き井戸に向かいます。毎朝の仕事は、家から少し離れた共同の井戸から水の出る水道が完備されたのは、小学校4年生の時でした。

経済成長を遂げた今、すべては「あたりまえ」になりました。「あたりまえ」

一日使う水を汲んで、大きな瓶をいっぱいにすることでした。ひねるとニジャー」と水の出る水道が完備されたのは、小学校4年生の時でした。

経済成長を遂げた今、すべては「あたりまえ」になりました。「あたりまえ」

「ワクワク大作戦！」

日教組派遣執行委員
（日教組中央執行委員）　西原　宣明

で相手が同じ大学だとわかると急にうれしくなり、親しくなることが多い。「なぜ出身大学でレッテルを張られるのか」という話で盛りあがり、連帯感が強まる。そして仕事もスムースに「さらり」とすすむ。なかなかいい感じである。

今年の箱根駅伝。歴代最速タイムでの初優勝に、そんな同窓生たちは、小さく「やった」と声をあげ、あの表情も「らしいなあ」と思ったはずである。ただ周りがあまりにも騒ぎ過ぎ、褒め過ぎなのには困った。それは「らしくない」から。

みなさんにとって、今年が「さらり」と「ワクワク」する一年になりますように。

組織拡大を実現する2015年に！